

第 1 回 洛西ニュータウンアクションプログラム検討会 会議録

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局	■ 開会 ○ただ今から第1回洛西ニュータウンアクションプログラム検討会を開会する。 ○はじめに、西京区洛西担当区長、及び都市計画局長より挨拶させていただく。
平井洛西担当区長	◆ 洛西担当区長あいさつ ○今回の「洛西ニュータウンアクションプログラム検討会」の立ち上げに際し、学識の皆様方、地域団体の代表の方々、地域のNPOや事業者の方々、多くの皆様の御参画をいただき、感謝申し上げたい。また、日頃の西京区政の推進、洛西支所の取組に対する御理解と御協力に御礼申し上げる。 ○洛西ニュータウンは平成18年にまちづくりビジョンが策定されたが、これを機に地域の皆様が主体となった洛西ニュータウン創生推進委員会が組織され、まちづくりが進められてきた。委員会では、住まいと景観・環境・小畑川の活用・交通等、チームごとにビジョンに掲げられた課題に対応した取組を行い、これまでそれぞれ大きな成果を上げられている。今後もチームごとにしっかりと取り組まれることを期待している。 ○今回のプログラムの検討の背景には、ビジョン策定から10年を経過し、その間、第二外環状線「通称：にそと」の開通で沓掛、大原野インターができることとなり、京都の新たな西の玄関口として重要性が高まっているという状況がある。しかし一方で、ニュータウンの人口減少、少子高齢化問題に歯止めがかからず、平成27年の国勢調査でも人口減少の傾向が続いて、高齢化率は4割近くになっている。そのような今日的な課題にも対応する必要が出ており、そういうことからこのプログラムの策定になったと思う。 ○これまでは地域の皆様と洛西支所が共に取組を進めてきたが、今回のプログラムの検討に当たっては、支所だけではできないため、本庁都市計画局と、地域の皆様と一緒に取り組んで参りたい。 ○現在、洛西支所では地域の魅力の発信に取り組んでいるが、交通の利便性が格段に良くなっていること、自然豊かな生物多様性のまちであること、子育て環境も整っていること等を対外的に発信し、それによって洛西地域を広く多くの方に知っていただき、若年層の移住・定住が進むことが期待される。 ○この3月には阪急洛西口駅の高架化が完成し、その下の空間を利用した賑わいの創出も、阪急電鉄を中心に検討されている。その中で、駅周辺だけではなく、洛西地域、ニュータウン、大枝、大原野、桂坂、あるいは西京区全体を踏まえた活性化も考えられる。そういう意味で洛西口駅とニュータウンの

黒田都市計画局長	関係も考えたい。 ○ニュータウン西側にある大原野地域もブランド戦略として活性化の取組が進められている。 ○そのようなニュータウンの魅力の発信や周辺地域との関係等についても、委員会の皆様の御意見を聴かせていただきたい。 ○このプログラム検討会は今年度中をめどに進められるが、実際にプログラムができてアクションをする段階になっても、委員の皆様の御支援を賜れると有難い。よろしくをお願いしたい。 ◆ 都市計画局長あいさつ ○御多忙のところ、本検討委員会の就任を御承諾いただくとともに、御出席を賜り感謝申し上げます。 ○洛西ニュータウンは260haにわたる広大な団地であり、京都市では最初に竣工し、続いて向島ニュータウンが建設された。それぞれのニュータウンに、少子高齢化やコミュニティ活動の担い手不足等、共通の課題があるが、一方で洛西ニュータウンは自然の豊かなところであり、向島とは趣が違う。ただ、京都市都市計画局としては、これらのニュータウンが完成後かなりの年月を経過しているので、種々の課題にきちんと対応すべき時期に入っていると考え、ニュータウンの活性化に向けた検討を行うため、この検討会が立ち上げられた。 ○当然、京都市が勝手に物事を決めるのではなく、ニュータウンの住民の方々、事業活動、社会活動に尽力されている方々の御意見を十分に伺いながら、良いまちづくりをしていくことを考えている。 ○本検討会は、具体的にどのようなことをするかというアクションプログラムの策定が目的であり、上位構想である「まちづくりビジョン」の下でプログラムを作り、実際に活動につなげていくことが趣旨である。まちづくりはハード整備をすれば完結するものではなく、それは1つの手法である。実際に住民やいろいろな活動をされている団体の方々等の活動があってまちが良くなっていく。 ○そういう意味では、平井担当区長から伺ったところ、すでにいろいろな形で御尽力いただき、基盤は整っていると確信している。この検討会での活発な議論を通じて、その基盤をより強固にして、このまちを一緒に未来に向けて住みやすく、魅力のあるまちにしていきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。 ○検討会では、日頃、皆様が思っておられる課題認識をベースに建設的な議論
----------	---

	を展開していただき、京都市の施策に反映していきたいと思っている。 (黒田局長，公務のため退席)
事務局	◆ 資料確認 ○ (資料確認)
事務局	◆ 趣旨説明 ○ (資料1について説明，参考資料1・2の紹介)
事務局	◆ 開催要綱 ○ (資料2について説明)
事務局	◆ 委員紹介 ○ 本検討会の委員の御紹介をさせていただく。 (資料3に基づき，各委員を紹介)
事務局	◆ 会長指名 ○ 要綱の第4条に基づき，本会議の会長の指名を行う。 ○ 会長の指名は市長が委員の中から指名することとなっており，市長は京都市立芸術大学美術学部教授の藤本英子委員を会長に指名しているので，藤本委員にお願いしたい。
会長	◆ 会長あいさつ ○ 京都市立芸術大学は7年後に京都駅前に移転することが決まっているが，私自身も10年前にビジョンづくりに参加し，長年，西京区のお手伝いをさせていただいているので，先々も可能な限りお手伝いしたいと思っている。 ○ 「もう10年経った」という感慨があるが，10年前，この部屋で皆さんとディスカッションを行い，ワークショップを重ねたことを昨日のこつのように覚えている。その後，皆さんがまちづくりの活動を継続されてきたことに敬意を表したい。 ○ しかし，冷静に考えると，私たちの生活はこの10年でいろいろと変わったと思う。1つは情報化の進行で，SNSの発達により，私たちは毎日のように全国あるいは世界中とつながって会話をしている。 ○ 交通も「にそと」の開通とともに車の流れ，人の流れが変わってきた。 ○ 同時に，市民活動が本当に根付いてきたと感じる。私も「にしきょう・ねっ

会長	と」の立ち上げからお手伝いしたが、西京区地域力サポート事業補助金により、多くの地域で活動を始めたい人、続けたい人がスムーズに活動を始められるようになった。私も毎年、助成金の審査委員を務めているが、確実に皆さんの力が付いてきたと感じている。10年前にビジョン作成をお手伝いした時も「市民の皆さんが主体」と掲げていたが、今、いろいろな活動が始まっているのを見ると、市全体で本腰を入れていろいろなことを始められる土壌が整ったという思いがある。 ○私は吹田市に住んでおり、近くに千里ニュータウンがある。千里ニュータウンは日本で最初に少子高齢化問題に直面したが、今は再びいろいろな力が蘇っている。若者たちが無農薬野菜の店舗を始め、地域の人たちが毎日のように通っている。このような新たな活動は、1人の活動から始まっている。それを鑑みると、大原野の横にあつて、自然豊かな環境があり、大学もあるこの西京区にある洛西ニュータウンの可能性を感じずにはいられない。 ○今回始められるアクションプログラムについては、行政がPDCA（※）等を見直して行動するのが当たり前になっている中で、今こそ行動することを求められている時代だと思う。そういう意味では、すぐにできることにトライして、エラーして、またトライするというのが、今の時代に合う活動の進め方ではないか。そのような取組を、京都市を挙げて始められることに期待している。 ○会長という重い役割を拝命したが、皆さんにお伝えしたいのは、いろいろな課題が見えてくる中で、洛西ニュータウンのあるべき姿を常に見失わず、時に夢を描けるような場になれば良いという思いである。どうぞ、よろしくお願いしたい。 ※ 事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（プラン：計画）→ Do（ドウ：実行）→ Check（チェック：評価）→ Act（アクト：改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していくこと。 ◆ 職務代理者指名 ○要綱の第4条第3項により、会長が職務を遂行できない場合のために職務代理者を指名しなければならない。この10年間、地域に入って活動を続けてこられた、兵庫県立大学環境人間学部の安枝先生にその役をお願いしたい。
----	--

会長	■ 議事 1 洛西ニュータウンまちづくりビジョン策定以後の取組状況と現状の課題について 2 アクションプログラム検討のための視点について ○それでは議事に入るが、「1 洛西ニュータウンまちづくりビジョン策定以後の取組状況と現状の課題について」と「2 アクションプログラム検討のための視点について」という議題に対して、まず、事務局から資料を説明していただく。
事務局	○（資料4、5について説明）
会長	◆ 言葉遣いについて ○言葉遣いは分かりやすい方が良い。「アクションプログラム検討のための視点について」の資料で図式化されているのは課題が分かりやすくして良いと思うが、「5 ニュータウンと周辺地域を対象とした更なる魅力向上策とポータルサイトを通じた情報の発信」の「ポータルサイト」という言葉を詳しく説明してほしい。
事務局	○「ポータルサイト」はインターネット等で情報発信をする時の入口になる部分で、洛西ニュータウンもホームページ等、いろいろな切り口で情報にたどり着ける入口を考えることになると思う。具体的には今後の検討になるが、そのようなイメージで見ていただきたい。
会長	○ネット上で情報が見える窓口ということである。 ○地域団体の方から御意見はないか。
委員	◆ 周辺地域の現状について ○ニュータウンと大原野地域は隣接しており、最近は大原野地域でも少子高齢化が顕著に表れている。大原野地域には18の自治会があるが、小学生が1人もいない自治会もある。どこも少子高齢化が確実に進んでいる。 ○昨日「なんやかんや『大原野』」の総会が行われたが、平成27年度の事業報告、平成28年度の事業計画等を立てて、大原野の活性化と内外への情報発信を行いたいと考えている。
会長	○ニュータウンだけのことを考えがちだが、周辺も同じ課題を抱えているので、それぞれの特徴を活かして互いにwin-win（※）の関係になれると良

委員	い。 ※ 双方が利益を得られるようになるという形態 ◆ リノベーション等の取組効果について ○京都女子大学との連携によるリノベーション住宅を中心に、子育て層、若年層の呼び込み等を行ってきた。その結果、この2年ほどUR賃貸住宅の空き家は減少しており、底をうった感がある。3,000世帯ほどある中で全体的に高齢化が進んでいるが、リノベーション効果もあって、ここ数年間に入居された方では30～40代の子育て層も増えている。それに合わせて情報もネットやSNSを通じて発信し、マスコミに紹介されているという影響もあって、この数年は良い流れになっている。 ○そういうことを踏まえて質問したいが、若年ファミリー層の呼び込みや定住促進を実現するためには、UR単体の活動では限界があるので、資料4のP4「5. 生活の支援」の【子ども・子育て】の2番目の「京都市が進める各施策～」について、どのような施策があって、今後、洛西地区にどのような計画が適用されようとしているのか、改めて教えていただきたい。 ○また、交通の便も良くなっているという話があったが、資料4のP3「4. 生活の利便」の4番目に「バス事業者や交通局との情報交換を行っており」とあるので、いかに利便性を高めるための情報交換を行っているのか。
会長	◆ 京都市の子育て支援施策について ○1点目は、子育てに関して京都市が行っている施策の中で、洛西ニュータウンに適用されるような支援があるかという質問である。
事務局	○京都市の大きな取組の1つとして「子どもはぐくみ局」を平成29年4月に開設し、京都市全体で「子育てしやすい京都市」という施策を打ち出している。今年度の9月頃までに一定案を取りまとめ、市民の方々にも示した後、どのような形で創設すれば良いかを検討する。 ○一方で、洛西ニュータウンでは個別に子育て支援に取り組んでいる。特に平成27年度に竹原委員を中心に「たけっこぐんぐんプロジェクト」の取組が行われ、洛西ニュータウン内の子育て支援施設を紹介した「洛西子どもマップ」を作成して、子育てをする方に見ていただくような取組を進めている。 ○また「たけっこぐんぐんプロジェクト」の今年度の事業として、スタンプラリーを実施する。これは各子育て支援施設を回って、それぞれどのような施設なのかを見ていただき、「ここに子どもを預けたい」と思ってもらえるこ

	とを目指した取組である。これはニュータウン外からも受け入れるので、洛西地域以外の各区役所にも情報発信している。本検討会にも子育て支援に取り組むグループの方に参加していただいているが、そういう方々にもお手伝いをいただいている。
会長	○「子どもはぐくみ局」の開設は面白い。9月頃にパブリックコメント（市民意見募集）を求められた際にそれに対して意見を出せるよう、皆さんで観察したい。 ○この分野は、前述のマップ等、市の支援と区の支援、市民活動が一体になって進むと思う。
会長	◆ 交通に関する情報交換について ○バス事業者との情報交換について説明していただきたい。
事務局	○バスの関係では、都市計画局歩くまち京都推進室が中心となって、洛西を含む各地域でバス利用を進めるために、自家用車の利用者が公共交通機関に乗り換えるようなモビリティマネジメントを行っている。 ○洛西地域では、洛西ワーキングの一環として、洛西地域での交通の利便性の向上を考えている。最初の取組として、境谷大橋のバス停に市バスと民間の交通事業者の時刻表を掲示し、また、阪急電鉄の時刻表とリンクさせる形でバスを運行するという取組を行ってきた。 ○最近の取組としては、福西学区や、創生推進連絡会の交通チームでも市バスをもっと便利にするためにモビリティマネジメントに取り組まれている。直近では3月19日のバスのダイヤ改正により、土日だけ運行していた特西4系統を平日にも運行することになった。さらに地域の方々がそれらのバスを利用することによって本数を増やす取組に結び付けようとしている。
会長	○他の方はいかがか。
委員	◆ サブセンター活性化の取組について ○NPO法人で、高齢者の居場所づくりやサブセンターの活性化に取り組んでいる。サブセンターを活性化することで、住み続けられるまちになると思うので、ビジョンに示された4つの会館をいかに使いやすくするかという取組を推進していきたい。 ○従来の創生推進委員会は連絡会の形に変わっているが、創生推進委員会はど

	のような形になるのか、後ほど回答を頂きたい。
会長	○他に御質問、御意見はないか。 ○事業者の方々にも御意見を伺いたい。
委員	◆ 人口減少の現状と鉄道事業の視点からの活性化について ○鉄道事業が成り立つのは、沿線に人が住まれて電車に乗っていただけるからなので、この地区でまちが存続していくことに関しては運命共同体と考えている。そのためにも、洛西口駅の高架下の活用も含めて協力させていただきたい。 ○質問だが、資料4のP13の「5歳階級別人口の推移」を見ると、15歳～30歳くらいの間の人口が極端に減っており、この層が外に出ているようである。そういう人たちはどこに出ているのか。傾向が分かるなら教えていただきたい。傾向を把握して、そういう人たちにこの地域に来ていただくためにはどのような施策が必要なのかを考え、例えば、高架下の活用をそういう人たちが住みたいと思うようになる視点で考えると、洛西口と洛西ニュータウン間のアクセスをどうすれば良いか等、アイデアを考えたい。そのためにも傾向を知りたい。
会長	○団塊ジュニアの減少を見ると、若い世代で大学生の頃に他の地域に出て行っているように思うが、この辺りのデータの読み方について説明していただきたい。
事務局	○細かな地域別まで落とし込んだ移動状況のデータは入手が難しいが、例えば、大学卒業の年齢で関東圏や大阪に出ているというデータから就職で転出していると分析できるような、もう少し大きな括りでのデータであれば入手可能かもしれないので、次回までに提示できるようにしたい。
会長	○京都市全体の動きと比較すると洛西の特徴が見えるのではないか。いろいろな地域で大学卒業と同時に転出者が増える傾向があると思うが、その人たちが戻って来てくれるようなまちになれば良いと思う。
委員	◆ NPO 活動の視点から ○10年前のまちづくりビジョン検討会と今回の検討会の違う点として、「NPO 法人等」という分類で5つの団体の方が参加されている。10年前はNPO法人

	がニュータウンの中にほとんどなかったが、この10年間で、委員会の活動に関わる方も関わらない方も含めてNPO法人の活動が活発になった。これが一番の変化である。その方々がこの検討会に入られることによって、議論のやりがいがあると感じている。 ○先ほどの子育ての話も、単にマップができただけではなく、「つどいの広場ま〜ぶりんぐ」や「マミーズアップ」の方々等が日常の活動を精力的に行われているからこそのことである。その他もNPO法人で福祉や地域連携等、実践的に活動されていると思うので、NPOの方々に活動を紹介していただくことで議論が活性化すると思う。
会長	○それではNPOの方々に活動を紹介していただきたい。
委員	○「マミーズアップ」は昨年5月に発足し、まだ1年経っていない。法人ではなく、「子育て中の母親を何とかしたい」と思う10人で運営しているプロジェクトである。 ○実働は昨年9月頃から始まり、洛西ケーブルビジョンとタイアップして「すてきmamaコンシェルジュ」という5分間のコーナーで、洛西や西京区周辺の店や教室、行ってみたいと思うようなところを紹介する等、家から出るきっかけを作れるような情報を発信している。 ○去年は地域力サポート事業の補助金を活用して「ママのたのしみかたmini BOOK」を作成した。これは洛西地域のお得な場所を取材した手のひらサイズの雑誌である。 ○今年度も補助金を申請しつつ、育児中の母親だけでなく、子どもの年齢に関係なく母親として気軽に情報交換ができるような、集える拠点をつくりたいと考えている。
会長	○素敵な活動である。それでは、次をお願いしたい。
委員	○「つどいの広場ま〜ぶりんぐ」は10年前に遡ると「NPO法人京都子育てネットワーク」として活動しており、私はそのスタッフである。URの委託を受けて子育て支援として、当時この地では珍しかったサークル活動を始めた。母親たちが自主的に場を設けて、子どもと一緒に活動も考えつつ、共に育て合いながら地域に広がっていこうという団体である。その自主的なサークル活動を進めて、4年後に京都市の委託を受け、つどいの広場事業に展開して「ま〜ぶりんぐ」と名付け、今に至る。場所はURの新林団地内の集会

	所で開催している。 ○私たちはサークルの後方支援を主としたNPOであり、受け身で終わらない支援を目指している。母親たちは、最初は支援される側だが、いずれは地域に出て子どもたちや地域の人たちのために役立つ社会貢献を志すよう、そのような考えを広めていこうと取り組んでいる。 ○取組は様々で、子ども向けのものもあるし、母親向けの講座や、子育てに関わる専門的な講座も取り入れている。また、地域の異年齢の子どもたちとの交流も受け入れており、異世代交流も視野に入れて活動している。最終的には、循環型に広がっていく支援でありたいと考えて日々活動している。 ○課題は錯綜し、複雑に絡み合っているので、1ヶ所だけ整えても解決には向かわないと重く受け止めているが、後ほど説明されるワーキンググループ間のやり取りも今後は必要になると思っている。良い機会を頂いたので、良い提案が出て、実現に向かうことを期待したい。
会長	○受け身で終わらない支援は活躍の場をつくるということである。 ○次をお願いしたい。
委員	○10年前にビジョンができた時に、やはりサブセンターの活性化という課題があった。また、ビジョンができた後、京都経済短期大学と連携して、高齢者が住み続けられる洛西地区を目指した取組を考え、現在、月～金曜日の午前中は高齢者の交流の場になっている。「洛西福祉ネットワーク」がNPOとなって3年目になるが、今は常連が10人くらいおられ、年間約2,000名の交流の場ができています。 ○一方で、買い物に困難が生じているので、月曜日と水曜日に朝市を開いている。1回に約50人の買い物客が来ており、大原野の野菜を持って来る等によって非常に好評を得ている。 ○また、リタイアした世代が家事支援、援助の形で働き手となっている。除草や1人暮らし世帯の蛍光灯交換等、年間30～40件の活動がある。 ○高齢者の昼食会も行っている。経済短期大学の生協で作られた食事を学生が運んで来て、私たちや高齢者と一緒に食事をする。これも好評である。 ○以前のビジョンでも若い人を呼び入れたいという目標があったが、なかなか難しいので、今住んでいる人たちが住み続けられるまちを目指そうと考えており、それが充実すると自ずと若い人も来るようになるだろうという願いをもっている。今後ともそれを発展させたい。

会長	○リタイア後も活躍の場として活動が続けるということである。
委員	○3年前に NPO法人を作ったが、その前は創生推進委員会の委員として活動し、その時に「子育て世代を呼び込もう」というキャッチフレーズであるフォーラムを進めたことがある。 ○リタイアして洛西ニュータウンを改めて見ると、当時と比較して元気がなくなっていると実感するので、もう一度元気を取り戻したい、若い人たちに戻って来てほしいと考えている。一番大事なのはタウンセンターが賑わうことである。そうすると、モノも売買されるし、人も集まる。そのように考えて、事業主の方々と一緒に活性化できる手段はないかというところからNPOを設立した。 ○その中で、子育て世代を呼び込む方法の1つとして「ラクセーヌ」で子どもを預かり、その間に買い物をしたり、喫茶店でお茶を飲んだりしていただくと考えた。苦しみながら取り組んできたが、今では「ラクセーヌ」や住宅供給公社も一緒になって主体的に進めている。毎週木曜日に行っており、始めて2年くらいになるが、今後も継続する。 ○また、洛西ニュータウンの魅力は、すぐ横にある大原野の景色を借景にできるところにあるので、ニュータウンだけで語るのではなく、大原野と一緒にした形でニュータウンの魅力をどのようにするのか、また大原野のどのようにするかということが大切な要素だと思う。 ○そこで、大原野の美味しい野菜をまず地元の人に食べてもらおうと考え、高島屋と交渉して取り扱ってもらえるようになった。これについては大変な御尽力をいただいております、農家の方々にも中央市場に段ボールで持っていくのと違って、高島屋で野菜を段ボールから出して並べ、値札を付ける等、いろいろな作業をいただいている。それでも2年経つと、それが普通のサイクルとなってきている。 ○そのような中で、大原野の観光の開発、活性化の活動が積極的に起きている。「らくさいマルシェ」は、高島屋、ラクセーヌ、エミナース等を主体とし、行政と私たちがサポートする形で一緒に取り組んでいるが、洛西ニュータウンの住民と大原野の住民が交流する場になっているので、地域にわたって大きく1つにまとまろうという流れのきっかけになったと思っている。このような会合や「なんやかんや大原野」の会合等、大きな力を一体として、ニュータウンを越えた大きなうねりをつくるためにNPOは活動できると考えている。 ○さらに、「コワーキングスペースらくさい」は、いろいろな人が仕事をした

	り、団体が打合せをしたり、異世代の人たちが集まって、そこから新しい仕事が始まるような、そういう場所となっている。このスペースをワーキングで使っていただくといろいろな人たちの打合せを横に見ながら、また公開された情報を互いに理解しながら進めることもできると思うので、活用していただきたいと思っている。
会長	○まちづくりビジョンが生み出したものは大きいと実感している。
委員	○洛西ニュータウン創生推進委員会は約7年間活動し、現在は「住まいと景観チーム」で活動している。 ○アクションプログラムを検討する視点で質問したい。洛西ニュータウンの人的資源については若い世代を呼び込むことも大事だが、洛西ニュータウンの最大の人口構成である団塊世代を活用しない手はないと思う。私も団塊世代だが、創生推進委員会に入った時に比べて、現在は同世代のメンバーが少なくなっている。10年経ってインフラも変わり、団塊世代がサポートする側とサポートされる側になるのとでは様々なコストが違ってくる。そういう意味でも、この世代を活用してまちづくりに寄与してもらう仕組みは大事だと思うが、検討する視点の中ではどのように位置づけられているのか。
会長	○団塊世代の活用については、どのように今の考え方の中に入っているのかという御質問である。回答をお願いしたい。
事務局	◆ 団塊世代の活用について ○資料5の裏面の「アクションプログラムを検討する視点」のうち「2」で、「ニュータウンと周辺地域の魅力向上に資する働く機会や場の創出」を目指すこととしており、「1」後段の「観光拠点機能を付加」することや、「3」の「サブセンターなどの既存ストックを活用しながら生活・福祉・居住関連施設の充実化」を検討していくことにより、機会・場の創出を目指す。また、今後設置していくWGでは、「子育て支援WG」「子育て支援WG」「高齢者の居住支援WG」等、具体的な取組を詰めていく中で、団塊世代の方々に活躍していただく取組の案が出てくると考えている。 ○そのように「働きたい」と思っている人と働く場をつなげていく、ソーシャルワーキングをつなげる仕組みもつくりたいと考えている。
会長	○団塊世代に焦点を当てても良いのではないかという御意見に対して、特に

事務局	「団塊世代」という言葉が出ているわけではないが、働く場をつくるところに入っているということである。 ○それでは、次の議題に入って、資料6について説明していただきたい。 3 ワーキンググループ（WG）の開催について ○（資料6について説明） ○（資料7について説明）
会長	○具体的にどのようなWGで進めるかという案である。 ○これについて意見があるようなので、御発言いただきたい。
委員	◆ 想定メンバーについて ○想定メンバーについて、「創生推進委員会」はなくて「創生推進連絡会」になっているが、これはどのような形になったものなのか教えてほしい。 ○サブセンターについては、私たちも参加して活性化に取り組みたいと思っている。特に境谷、竹の里はスーパーがなくなって買い物に困っているの、昨年から業者に取り次いで注文する形を作った。4年前にネットスーパーの社会実験が行われたが、そのまま終わった形になっているので、それも含めてサブセンターWGの構成メンバーをどのようにするのか教えていただきたい。
会長	○1点目は、創生推進委員会はこの中でどのように捉えたらよいかという質問である。それについて御説明いただけるか。
委員	○創生推進委員会は平成19年6月以降、洛西地域のまちづくりについて活動されてきた。委員会の中にはチームがあり、いろいろな変遷を経て最終的に「住まいと景観・交通・環境・小畑川活用・高齢者・境谷会館・広報」の7つのチームになったが、それぞれ特徴のある活動をされる中で濃淡が出てきた。中にはチーム単独で市の補助金を受ける等、会計的に独立する動きも出てきた。 ○そこで、委員会内で議論し、それぞれの活動で連携できる緩い体制の方が活動の自由度が高まると考えて、平成28年4月1日から名称を創生推進連絡会として活動されることになった。
事務局	○メンバーについては、「タウンセンター・サブセンター施設検討WG」の進

	め方として、資料8の「合同WG」に「子育て×サブセンター」「サブセンター×ソーシャルワーキング」とあるが、サブセンターの活用方法は、他の子育て・高齢者・ソーシャルワーキングでどのように使い方をすべきかをまず詰めなければならないと考えている。基本的に「タウンセンター・サブセンター施設検討WG」は施設所有者に集まっていたいて、ニーズに関しては別のWGで詰めて、その施設を活用する上で何がハードルになっているかを検討していく。したがって、それに至るまでに、子育て・高齢者・ソーシャルワーキングでどのような活用のある方があるかを検討していく形になると思う。
委員	◆ アクションプログラムの広報について ○一住民として考えた時に、このアクションプログラムは、承認された後、まちづくりの1つのビジョンとして、創生推進委員会から連絡会に変わった経緯も含めて、いつ、どのような形で住民の方々に広報するのか伺いたい。
会長	○それについては、スケジュールも含めて説明していただいた後、回答していただければと思う。
事務局	4 今後のスケジュール ○（資料8について説明） ○先般、向島で同じような検討会を開催し、各所から代表者の参加を得たが、住民の声をどのように聴いて、どのようにフィードバックするのかという議論があった。それについては、各組織の方々の声を拾い上げるだけではなく、検討会の議論をしっかりと周知させていただき、住民の声を吸い上げていきたいと考えて、昨年度に予算も要求している。財政状況は厳しいが、そのような形で活用できるようにやり繰りし、できるだけ住民の方々に状況を伝えて、また住民の声を聞く機会としてこのような検討会やWGの場で御意見を頂いて、具体的な方法についてお知恵を頂きたいと考えている。
会長	○具体的に決まっているわけではないが、そういう考えがあるという回答である。「まちづくりニュース」も毎月出ると決まっているわけではないのか。
委員	○この資料は部外秘なのか。
事務局	○部外秘ではない。

	○「まちづくりニュース」も月1回出すことが決まっているわけではないが、少なくとも検討会ごとには出すことを考えている。
委員	◆ 創生推進委員会 → 創生推進連絡会について ○創生推進委員会について、西京区の基本計画の中に「洛西の項目に関しては創生推進委員会で実施する」とされているので、今後は「創生推進連絡会が実施する」となるのか。
会長	○組織の名称も含めて順次見直していくと思うが、これについてはどうか。
事務局	○これまでは創生推進委員会でいろいろなことが実施されたが、このアクションプログラムの検討の中では、最終的にエリアマネジメントの考え方も検討事項に入るので、一旦、チームごとの取組は継続して行っていただきたい。 ○ただ、全体として新たにしなければならないこと出てくると思うので、そうすると新たなチームを作らなければならない。それを全体としてどのようにまとめていくのか、連絡会を引き続き行うのか、あるいは新創生推進委員会ができるのか、そういう進め方も含めて、エリアマネジメント組織も検討素材の1つではないかと思っている。
委員	◆ WG参画について ○洛西ニュータウンには府営住宅が2団地、799戸あるので、京都府も本会議に参加しているが、その団地も含めて府営住宅では、最近、子育て世代に取り組み、子育て世代向けの優先入居の実施や、2戸1改修の上での子育てリフォーム等の取組を進めている。そういう関係で、WGでは一公的事業者として京都府も加わったほうがよい。
事務局	○それでは、「住まいWG」において御協力をよろしくお願いしたい。
会長	○他に御意見がなければ、スケジュールも含めて、本日検討すべき予定をすべて終えたと思う。全体について特に御意見がなければ、事務局にお返ししたい。 (一同、意見等なし)
事務局	■ 閉会 ○本日は貴重な御意見を多数賜り、感謝申し上げます。皆様の御意見を今後の進

会長	め方に反映し、より良いアクションプログラムとして取りまとめていきたいと考えている。今後ともよろしくお願いしたい。 ○貴重なお時間を頂いて、活発な御意見，御質問を頂き，感謝申し上げます。 ○それでは，第1回洛西ニュータウンアクションプログラム検討会を終了させていただきます。 以 上
----	---